

# 文章題テスト・説明／論説(1)

月 日  
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1)～(4)は段落の番号です。)

① 近ごろは、真壁しんかべづくりの家が少なくなりました。木造建築アが少なくなったためです。しかし、木造家屋を「大壁」というつくりにすることが多くなったせいもあります。大壁というのは、板や合板やビニールクロスで家の骨組みほねぐみをおおい、柱を見えなくした壁のことです。大壁にすると、壁が家をささえている西洋の家にに似てきます。

② 大壁が主流になったのは、人々の好みと生活様式が、洋風になったためでしょう。しかしそれは、家のためには決して好ましいことではありません。日本は、高温多湿しつの季節がある国です。そういう国で、木材を、通気性のない外装そうと内装うちそうの間まにとじこめると、家をささえている大事な柱が、むれてヨワイくなってしまうからです。日本ニに真壁づくりが生まれたのには、それなりのわけがあるのです。

③ 木は、柱や板になってからも、生きて呼吸こきゅうしています。ですから、イキウがつけるように、せめて家の中ぐらいいは、柱をむき出しにしておいたほうがいい。一〇センチ角、長さ三メートルの柱一本は、ビールびん一本分の湿気を、吸すったり放出したりしています。柱をむき出しにしておけば、それだけの湿度を調節することができます。

④ 住まいを近代化すること、洋風にすることはちがいます。真壁づくりは、日本ニの風土ふうどに合った構造こうぞうです。木の美しさや、大工さんの技術ぎゆつも生きてきます。壁は、合板や石こうに変えてもかまいません。しかし、柱を空気にふれさせる構造は、ぜひ復活ふっかつしてほしいものです。  
(河津かわづ 千代ちよ「知っていますか 日本の自然と木の文化」より)

(注) 真壁——柱と柱の間をうずめる形でつくられる壁

線ア～オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア けんちく

イ 弱(く)

ウ 息

ア 似た意味の漢字を組み合わせた熟語。

イ 音は「ジャク」、弱点など。

ウ 音は「ソク」。上の部分を「白」としないように。

エ こうぞう

オ ぎじゆつ

エ 「構」の訓は「かま—える」。「講」などと区別すること。

オ 「技」の訓は「わざ」。「術」は音のみで、「わざ、やりかた」の意味。



2 線「間」は、二つの漢字を組み合わせて、新しい意味を表すようにした文字（会意文字）です。これと同じででき方の漢字を、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 木      イ 洋      ウ 本

エ 好

アは絵文字を略した象形文字、イは音を表す部分と意味を表す部分を合わせた形声文字、ウは絵に似にくい事がらを印などで表した指示文字。

3 線「木造家屋を『大壁』というつくりにすることが多くなった」とありますが、それはなぜですか。その理由にあたる部分を文中から二十字でぬき出し、最初の五字を書きなさい。

人々の好み

②段落の初めにある。「大壁にすると…西洋の家に似てきます」もヒント。

4 線2「日本に真壁づくりが…わけがあるのです」とありますが、「真壁づくり」の良い点を、

③段落の言葉を使って、二十五字以内で書きなさい。

る	と	柱
点	で	を
。	、	む
	湿	き
	度	出
	を	し
	調	に
	節	す
	で	る
	き	こ

柱をむき出しにすることで、木が呼吸することができ、湿度を調整できる。

5 線3「日本の風土」の特ちょうを述べている部分を、文中から十字で書きぬきなさい。

高温多湿の季節がある

「風土」とは、その土地の気候・地形・地質など。

6 この文章の内容に合っているものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 真壁づくりよりも、柱を見えなくした大壁というつくりの方が木の美しさを生かすことができる。

イ 生活様式が洋風になってきたのだから、当然、家のつくりも西洋と同じにしたほうがよい。

ウ 木造建築の家が減ってきたのは、柱で家をささえる構造が日本の風土に合わないためである。

エ 住まいを洋風にすることよりも、日本の風土に合ったつくりの家を見直すことの方が大切だ。

④段落に筆者の主張がまとめられている。



# 文章題テスト・説明／論説(2)

月 日  
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

大切なのは視線しせんです。どこを見るかということですが、特に、相手の目と視線を合わせ  
ることをこれはアイコンタクトといいいます。

これも文化によって違ちがいます。タトえば、バングラデッシュでは、目上に対しては下を  
むいたまま話をするそうです。日本でも、昔はどちらかというところだったようですし、  
今でも、日本では、子供が親に怒おこられるとき、じっと親の目を見たりはしません。話を聞  
いているという印いとして、相手の目を時々は見ますが、じっと見つめることは、むしろ、  
反抗はんこうの気持ちを表すことになるのではないのでしょうか。

一方、イギリスの人から聞いたのですが、小さいころ、親からしかられるとき、よく、

「私の目を見なさい！」

と言われたといます。相手の目を見ないことは、相手の話をきちんと聞かないというこ  
となのだそうです。

ただし、日本でも、相手と話をする場合には、きちんと思いを伝えるとき、時々相手  
の目を見るのが普通のようにです。学生時代、面接試験の時は、相手のネクタイのあたりを  
見なさい、と教えられました。自分が面接員になった時の個人的印象では、ぼんやりと  
目を合わせないままでいるよりは、 時々相手  
の目を見てしっかりアイコンタクト  
を取るほうが自信エをもって話をしていような気がします。

前に自動車の販売はんをしている人から伺うかがった話ですが、商談をする場合には、複数の相手  
がいれば、必ず、一人一人の目を見るように気をつけているそうです。相手の目を見ない  
で話をする、まるでその人を無視むししているような印象を与あたえてしまい、その人が気分を  
ワルくする可能性かのうせいがあるからです。これは発表をする場合などでも同じなのではないでし  
ょうか。話を聞いてくれる一人一人を大切にするという思いを、アイコンタクトによって  
表すことができるのです。これは大切なことです。

(森山 卓郎「コミュニケーションの日本語」より)



1 線ア～オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア 音読みは「レイ」。例文、一例など。

イ 音読みは「イン」。印字、調印など。総画数は6画。

ア 例(えは)

イ しるし

ウ 「接」の訓読みは「つーぐ」。接ぎ木など。 エ 「信」は音読みだけの漢字。へんは「にんべん」

ウ めんせつ

エ じしん

オ 悪(く)

オ 音読みは「アク」。悪人、悪役など。

2 線「じっと親の目を見たりはしません」とありますが、「じっと」はどのことばを修飾(しゅうしやく) (くわしく) していますか。ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 親の イ 目を

ウ 見たりは

エ しません

「じっと」↓「見る」。「じっと」は、  
どのように見るのかをくわしく説明  
していることば。

3 [ ]に当てはまる最も適当なことばを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア まるで

イ むしろ

ウ とても

エ かなり

「…よりは、むしろほうが」というつながり。

4 線「文化によって違います」とありますが、相手と話をする場合の、文化による違いを、次のようにまとめました。

①、

②

に当てはまることばを、①は文中から八字で書きぬき、

②は十字以内で書きなさい。

①		目上に対しては下をむいたまま話をする。
イギリス		② 話を聞く。

① バングラデッシュ

② (じっと) 相手の目を見て

①③、4行目にバン格拉デッシュ、②8～11行目にイギリスでのアイコンタクトの考え方が書かれている。  
イギリスでは、相手の目を見ないと、話をきちんと聞いたことにならない、とあることに着目。

5 この文章で筆者が言いたかったことを次のように説明するとき、[ ]に当てはまることばを、文中から七字で書きぬきなさい。最後の二文に、筆者がいちばん言いたかったことがまとめられている。

アイコンタクト

によって、話を聞いてくれる人を大切にする、

という思いを表すことができる。





1 線1「太陽がいつぱいの国」と反対の意味で用いられている言葉を、文中から六字で書きぬきなさい。

鉛色の空の国

「鉛色の空」とは、太陽の光がよわいくもり空のこと。

2 線2「そういう住まいの伝統」について次のように説明するとき、に当てはまる言葉を、文中から十字で書きぬきなさい。

日本人は、長年、夏の暑さをさけるために

日ざしをさえぎる構造の

「そういう」の内容は、すぐ前の一文に書かれている。文の中から「日本家屋の伝統」としてあげられている点をさがそう。

家屋を住まいとしてきたということ。

3 2と4段落の要点を次のようにまとめるとき、に当てはまる言葉を、九字で書きぬきなさい。

夏の都会は、建物の熱やクーラーの排熱などで

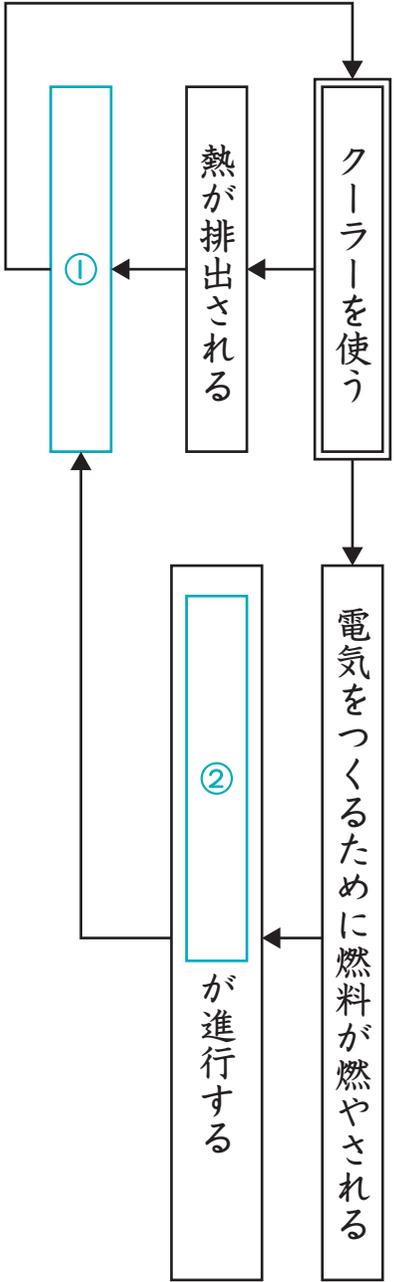
ヒート・アイランド

になる。

4段落の最後の文の中に「夏の都会は、熱のかたまりのようなヒート・アイランドになります」とある。

4 線3「暑さの悪循環」を次のようにまとめるとき、、に当てはまる表現を、

①は十字以内で書き、②は文中から五字で書きぬきなさい。



① (例) すます 気温が上がる

5段落の内容をよく読もう。クーラーの排熱によって、どんなことが起きるのか。

② 地球温暖化

最後の一文に書かれている。

5 この文章で筆者が最も述べたかったことがまとめられている段落の番号を書きなさい。

1 段落

筆者の主張は、「いちばん初めの段落で述べられている。」「どこの国の住宅も、それぞれの風土の中から生まれてきたもの」であり、日本の風土に合った住まいは、日ざしをさえぎる構造をもつ伝統的な日本家屋である、ということがこの文章の要点。その伝統を無視して建てられたコンクリートの建物の欠点と環境におよぼす悪影響を、2段落から後の文章で説明している。



# 文章題テスト・説明／論説(4)

月 日  
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

とても寒い朝、校門の前の道路がおおっていました。ちこくしそうだったひろしくんは、走ってきて、すってんころりん。これを見ていたしげるくんが、「超ちようかっこわるい。」とはやしたてました。

例文の「超かっこわるい」は、ひろしくんをからかうために、しげるくんがわざとおもしろい言い方をしてみせたのでしょう。【ア】

最近の流行語として、「超きれい」「超こわい」「超おもしろい」などと、やたらに「超」をつけるのがはやっています。ものすごく、という意味で使っているようです。【イ】

給食のサラダにきれいなピーマンが入っていたときに、「超かなしい。」なんて、それほごたいしたことでもないのに、「超」ということばをつけていう人もいます。【ウ】

でも、本当は、「超」にこのような使い方はありません。【エ】

きまった言い方として、「超特急」「超高速」「超満員」「超音速」「超能力」「超党派」「超自然的」などがあります。

「超高速」は、とびきり速いということですね。「超音速」は、音速、音の速さを超える速さということですが、「超党派」は、それぞれの政党の範囲を超えて活動することです。

「超自然的」は、「超自然的な現象」などと使い、自然には起こらないようなという意味です。

また、一般に、とびきりという意味で、「超豪華」などと使うこともあります。流行語の「超きれい」「超おもしろい」などは、この使い方を応用したつもりなのでしょう。

でも、「超」ということばは、やたらに使うことばではないのです。「超かっこわるい」は、「すごくかっこわるい」もっていいねいに、「とてもかっこわるい」といえばいいのですから……。

(西本鶏介「まちがいだらけの言葉づかい」による)



1 線「路」という漢字を、ある小学生用の漢字辞典で引いてみると、次のように書いてありました。□に当てはまる、へん(部首)をのぞいた部分の画数を書きなさい。

13画	路	画
足	□	画
	学	3年
	よみ	音
	訓	じ

6画

上の数字は総画数を表している。  
部首は「足(七画)」。

2 □に当てはまることばとして最もふさわしいものを、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。「音速」を「音の速さ」と言いかえている。「すなわち」なども同じ働きをする。

- ア したがって    イ しかし    ウ または    エ つまり

3 この文章には次の一文がぬけています。どこに入れるのが最もふさわしいですか。文章中の【ア】〜【エ】から選びなさい。文章の流れをつかんで、最もふさわしい位置を選び。

「超」は、とびきりとか、その程度や範囲を超えとかいう意味で、熟語(二字以上の漢字を組み合わせてできた言葉)の上につけて使われることばです。

エ

4 線「このような使い方」について次のようにまとめるとき、□に当てはまることばを、文中から十字程度で書きぬきなさい。ただし、「」や「。」も一字とします。

「超」を「きれい」や「おもしろい」などのことばの上につけて、

ものすごく、という意味  
 (とびきり)と、いう意味  
 で使うこと。

3〜4行前で、最近の「超」のつくことばに対し、「ものすごく、という意味で使っているようです」とある。

5 線A「超きれい」、B「超おもしろい」のどちらか一方を、最後の段落の内容を参考にして、「超」を使わない表現に直しなさい。

(例) とてもきれい／すごくきれい  
 とてもおもしろい／すごくおもしろい

最後の段落を参考にして、「超」の部分を「すごく」や「とても」にかえるとよい。



# 文章題テスト・説明／論説(5)

月 日  
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

江戸えとのふつうの人びとは、今の人から見れば質素しっそで、不便びんべんなくらしをしていました。ところが、不便びんべんなために時間のゆとりが今よりあったのです。

たとえば大工だいこうさんは、朝は早くから働きはじめても、暗くくなる前に仕事を終わりにしました。電灯でんとうがないので、暗くになるとこまかい作業さぎょうができないばかりか、木のくずが散らばっているところで、ろうそくなどをつければ火事かじになるきけんがあるからです。明るいうちに家に帰った大工だいこうさんは、ゆっくりする時間がかなりあったのです。

また、江戸の面積の半分は田や畑はたけで、農民のうかんきがたくさんいましたが、農作物のうさくぶつを育てるには手間てまのかかる時期じきとかからない時期じきがあつて、手間てまのかからない農閑期のうかんきは時間のゆとりがありました。

、家賃やちんや教育費きょういくひが安やすかったため、ふだんはあまり長い時間働はたらいてたくさんかせぐ必要ひつやうがなかったのです。そのため、江戸ではいろいろな遊びあそびに熱中ねつちゆうする時間がたっぷりありました。さまざまな歌うたを習まなう、三味線さんみせんなどの楽器がくぎをひく、和歌わがや俳句はいくなどの詩うたを作る、仲間なかまうちで芝居しばいをする、絵えをかく、花はなや観葉植物くわんえつしょくぶつを育てる、遊山ゆうざんといつて景色けいしょくのいいところへ見物けんぶつに行くなど、おとなの趣味しゆみはたくさんありました。

子どもたちも、今のような宿題しゅくだいや受験勉強しゅけんべんきやうなどなかったので、手習てまいから帰ると、手てつだいをしながらも、日がくれるまで外そとで友だちと遊びあそびしました。遊びあそびの種類しゆるいは、今の子どもよりはるかに多かったと思います。

(石川英輔「江戸のゆったりスローライフ」より)

(注) 江戸…昔の東京。ここでは、江戸時代(一六〇〇年ころからおよそ二六〇年間)の

東京のこと

質素…ぜいたくでないこと

手習い…江戸時代でいう学校のこと



1 線1「江戸のふつうの人びと」の例として、どのような職業(しよくぎょう)(仕事)の人があげられていますか。二つ書きぬきなさい。  
(順不同) 3〜6行目は大工さんのようすを、7〜9行目は農民のようすを説明している。

大工(さん)

農民

2 線2「不便なくらし」とありますが、文中で、不便なことの例としてどんなことがあげられていますか。八字までで説明しなさい。

電(例)灯がないこと。

大工さんの例で、電灯がないことがあげられている。

3 線「時」と同じ部首の漢字で書き表すものを、ア〜エから一つ選んで、記号に○をつけ

なさい。「時」の部首は「日(ひへん・にちへん)」。アは「治る」、イは「待つ」、ウは「祝う」、エは「晴れる」。

ア 病気がナオる      イ 母の帰りをマツ      ウ 卒業をイワう      エ くもり空がハれる

4 線3「暗くなる前に仕事を終わりにしました」とありますが、この理由を次のようにまとめるとき、①、②に当てはまる言葉を、文中からそれぞれ十一字で書きぬきなさい。

・暗くなると、①から。  
 ・ろうそくなどをつけると、②から。

① こまかい作業ができない

すぐ後の文から、形に合うようにぬき出す。

② 火事になるきけんがある

5 ①に当てはまる言葉として最もふさわしいものを、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。  
 ②の前までは、江戸の人びとに時間のゆとりがあったことを説明し、後ろの文では、さらにつけ加えて、たくさんかせぐ必要もなかったことを説明している。

ア だから      イ けれども      ウ しかも      エ ところが

6 江戸の人びとのくらしについて説明した次のア〜エの文のうち、本文の内ように当てはまらないものを一つ選んで、記号に○をつけなさい。

ア ぐらしは質素だが、時間にはゆとりがあった。

イ 働く時間は短くても、たくさんかせぐことができた。  
たくさんかせぐ必要がなかったので、働く時間も短かったと書かれている。

ウ おとなにも、熱中できるさまざまな趣味があった。

エ 子どもたちは、手つだいをしながらよく遊んだ。

